E—18 奈良市における町家の連子格子に関する研究

奈良女大家政　○長沢由喜子　梁瀬度子　花岡利昌

目的；町家における連子格子は町並景観を構成する一要素として不可欠であると同時に、それ自身のもつ古い歴史とともに人々の生活と密接に結びついている。しかし、その姿を現在までとどめているのはごく少数に過ぎず、その機能が見直されないままに葬られつつある現実である。本研究はこの連子格子の形態及び機能に着目し、その形態的現況を把握することに始まって、環境学的に連子格子のもつ機能を明きらかにし、その機能を現代的な意味でどう把えていくかといった問題にまで発展させようとするものである。

方法；先ず形態的現況を把握するため、旧奈良市街地を対象として連子格子を有する家屋について調査を実施した。調査方法は、連子格子自体の各部位測定を中心として、同時に居住者からの聞き取り調査、写真撮影を行なった。さらに、連子格子の代表例を有する家屋において、格子の間の遮風率、屋光率及び遮熱効果を測定することにより、その機能に関しての実験的検討を試みた。

結果；調査によって得られたデータ688例について形態的分類を行なった結果、奈良格子、台格子、嵌込格子に大別され、中でも嵌込格子が圧倒的に多く、各々の形態の寸法的特徴が明きらかになった。いずれの場合にも材料の使われ方、組み合わせ方に合理性が認められ、それが意匠的効果を高める結果になっていると言える。さらに木辻格子、親子格子、畳格子といった特殊形態も興味深いものがある。また実験においては、遮熱効果が顕著に認められ、縦型ルーバーとしての機能が認められる一方、採光面においての問題点が指摘された。